

## 中耕・培土と雑草防除

- 5月の好天によりほ場の碎土率が向上したため、管内の出芽・苗立ちは順調です。
- 6月11日に梅雨入りとなりました。1回目の中耕・培土は、晴れ間を逃がさず作業を進めましょう
- 根の発達促進・除草・倒伏防止のため、適期に中耕・培土を2回実施しましょう。

### 1 中耕・培土の方法 ～1回目の中耕・培土は遅れずに～

(1) 培土の時期と培土位置のめやす

中耕・培土	大豆の生育	は種後日数	培土の位置
1回目	本葉2枚目展開頃（主茎長：12～15cm）	20～25日頃	子葉節まで
2回目	本葉5枚目展開頃（主茎長： <u>地際から</u> 20～30cm）	35～40日頃	初生葉節まで

- 降雨が続き、ほ場の排水が悪い場合は、1回の培土で作業を仕上げる。
- 開花期の培土は根を切ってしまうため、生育抑制や落花・落莢を招きやすい。開花始め（は種後50日頃）までに培土作業を完了すること。

(2) 1回目培土の留意点

- ① 培土作業は梅雨が本格化する前に実施する。
- ② 培土の高さは15cm程度とする。培土が高すぎると収穫ロスや収穫時に汚粒発生を招きやすい。
- ③ 中耕・培土作業の後、スムーズに排水出来るよう畝間の溝を明きよや排水溝に速やかに連結する。
- ④ 株元が凹むと培土の効果が下がり、水が溜まって病害の原因となるので、株元までしっかり覆うように確実に培土する。

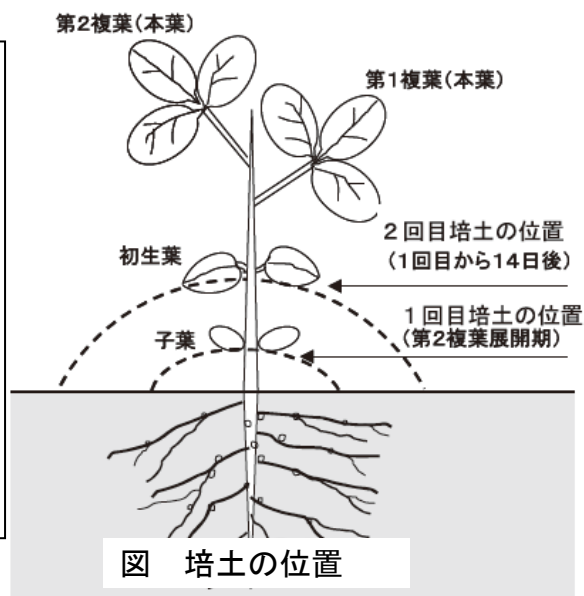


図 培土の位置

### 2 湿害防止 ～明きよ・暗きよの管理～

- 降雨の前後に排水溝や明きよを点検し、排水が滞らないよう必要に応じて手直しを行う。
- 水が溜まった場所は溝を切って明きよにつなげ、速やかに排水されるようにする。
- 中耕・培土作業の後は、スムーズに排水出来るよう速やかにうね間の溝を周囲明きよに連結する。
- 降雨が続く場合は湿害を防止するため、暗きよ栓を開放する。

### 3 追肥

湿害により葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合は、生育回復のために速効性肥料を追肥する。

肥料の種類	施肥量（窒素成分 kg/10a）	施用方法
速効性肥料 （硫酸等）	1～3	排水対策を行った上で培土時に追肥

### 4 雑草防除 ～ 2回の中耕・培土で発生を防ごう ～

- 繁茂したほ場内雑草は、大豆の生育抑制や収穫作業の支障・汚粒の原因となるため、雑草が大きくなる前に中耕・培土を実施する。中耕・培土で雑草が抑えられない場合は生育期に除草剤を使用する。
- 茎葉処理除草剤を施用する場合は、大豆にかからないよう飛散防止カバーを使用する。周辺の水田への飛散防止に十分注意する。
- アサガオ類はつる化すると防除が困難となるので、残った個体は早期に抜き取りを行う。抜き取った後、ほ場に放置すると結実するため、ほ場から持ち出して処分する。



図 株間に残ったアサガオ



図 つる化したアサガオ

- 農薬を使用する際は、使用方法・注意事項等を必ず確認し、内容を遵守する。
- 農薬散布時は、周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意する。
- 農薬使用後は、防除歴を整理し、記録・保管する。

### 5 梅雨明け後の暗きよの管理と高温干ばつ時のかん水

- 水田に囲まれたほ場など排水の悪いほ場や降雨等によりほ場に停滞水が多い場合は、暗きよ栓は開放したままにする。
- ほ場が白くなるなど乾燥しやすいほ場では、暗きよ栓は閉め、夏期の干ばつによるストレス軽減を図る。
- 開花期の大豆は水稻以上に水を必要とするので、排水性が高くほ場が白く乾燥する場合は、7月下旬から8月下旬（開花期～莢肥大初期）に畝間かん水等を行う。